



西部湿原の池と観察道



東部湿原観察道入口と案内板

高鍋湿原のトンボ類

トンボについては、1977年「高鍋の自然」(南九州大学)で、12科67種の観察記録があり、1989年「高鍋湿原調査報告書」(宮崎自然環境調査研究会刊)などにより全容が明らかにされました。

●ハッチョウトンボ

高鍋湿原を代表するトンボの一種で、日本産では最も小さいトンボで体長わずか20mm、雄は鮮やかな赤色、雌は黄色と黒の斑模様なので容易に判別でき、特に西部湿原で多く見かけられます。

●コシアキトンボ・チョウトンボ

これらのトンボは、東西両湿原でよく見かけられます。

●ハラビロトンボ

このトンボは、里の近くでは余り見かけませんが、ここでは、最も多くの姿を見ることができます。

●その他のトンボ

イトトンボ・ヤンマなども数多く見ることができます。

高鍋湿原の植物類

ここは高鍋防災ダムの工事により表土を削り取られてしまい、シルト層が露出した場所で植物の生育には不向きな条件でした。

しかし、深く掘り下げた所に近くの山林からの湧水が池をつくり、現在の環境ができたのは1968年です。

東部湿原には二つの池があり、その一つにはヒメガマが繁茂し、周辺にはチゴザサ・ミゾソバなどが、また池水の中にはタヌキモ類(食虫植物)も見られます。他方乾燥した所には、メリケンカルカヤなどが多く見られ、サワオグルマ・ヒメノボタン・ツルリンドウ等季節の変化に合わせて美しさを見せてくれます。

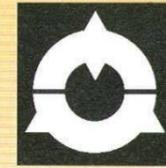
西部湿原にも二つの池があり、一つにはカンガレイが多く、その周辺には、サギソウの群落を見ることができます。

他の一つには、タヌキモ類などの藻類が多く見られ、水深もかなりあり周辺にはモウセンゴケノ群落を見ることができます。また、湿地の草原ではミズトンボ・ミミカキグサ・スイランを観察できます。

観察できる時期

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
4月～10月	アオモイトンボ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
4月～10月	クロイトンボ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
5月～9月	ベニイトンボ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月～10月	コバアオイトンボ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
5月～10月	ギンヤンマ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
4月1日～7月	クロスジギンヤンマ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
5月下旬～9月	ネアカヨシヤンマ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
4月～6月	サラサヤンマ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月～9月	オニヤンマ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
4月～5月	ヨツボシヤンマ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
5月～8月	ハッチョウトンボ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
4月～10月	シオカラトンボ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月～9月	コシアキトンボ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月～10月	チョウトンボ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
5月～6月	フキアカネ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
9月～11月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
5月～6月	ネキトンボ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
9月～10月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
5月～10月	ウスバキトンボ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

交通案内



かけがえのない自然

高鍋湿原



高鍋町・高鍋町教育委員会



●ハッチョウトンボ

(オス)



(メス)



●ハラビロトンボ (メス)



●ハラビロトンボ (オス)



●チョウトンボ



●ベニトンボ



●ヒメノボタン (花期8~9月)



●ツルリンドウ (花期10~11月)

高鍋湿原見取り略図



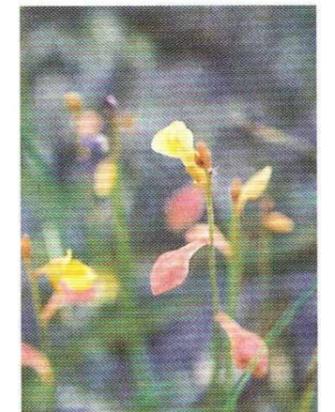
トンボの橋



●サギソウ (花期7~8月) 高鍋湿原の代表的な植物



●サワヒヨドリ (花期7~8月) 花には白色もある



●ミミカキグサ (花期7~10月) ホザキノミミカキグサ・ムラサキミミカキグサも群生している



●ヘビノボラズ (花期4~5月) この灌木は伊勢湾沿岸とここ高鍋・川南の一部にだけ生えている



●カキラン (花期5~6月)

貴重な自然を大切に守りつつ育てていきましょう。